

# 山口大学AO入試入学者の受験準備と入学準備

林 寛 子  
富 永 倫 彦

## 要旨

本稿は、AO入試における受験生の受験準備段階から入学前準備の実態と意識、高校の指導の実態を平成18年度AO入試による入学者を対象に質問紙調査から明らかにしたものである。調査結果から受験準備段階の出願書類作成、面接練習、講義等理解力試験対策は全て高校教員の関与が強いことが明らかになった。しかし、合格後から入学までの段階では高校教員の関与は消極的なものとなる。センター試験・個別試験を目指す受験指導の流れの中、または通常のカリキュラムの範囲内で他の生徒と同様、一律の指導が行われていることが明らかになった。

## キーワード

AO入試, アドミッションポリシー, 受験準備行動, 入学前教育

### 1. はじめに

山口大学はAO入試を導入して19年度入試で6回目となった。平成19年3月現在5期生までを入学者として迎えている。山口大学AO入試は、受験生に学力試験を課さず、AO入試のアドミッションポリシーに基づいて受験生が持つ基礎学力、創造的な思考力、意欲、適応力などを多面的に評価する入試として導入された。導入以来、毎年志願倍率は4倍を超えている。学部・学科によっては志願倍率が10倍を超えたこともある。そのため、全ての出願者を面接することが困難であるため、第1次選抜は書類審査を行っているが、第2次選抜では十分に時間をとった面接と内容を工夫した講義等理解力試験を実施し、独自性の強い入試を行っている。

現在、多くの国公立大学、私立大学でAO入試を実施しているが、選抜方法は大学ごとに形態が異なっている。山口大学はこうした他大学の動向やAO入試に対する社会的評価

も考慮しながら、学力試験を課さないことは貫きつつもエントリーから第1次選抜段階においては毎年改善を加えながら実施してきた。そのために、山口大学のAO入試はよく変わるとの印象を与えたのも事実である。また、山口大学AO入試の方法に関する批判だけでなく、AO入試そのものへの批判も寄せられる。一部の高校からは「大学生の基礎学力の低下が憂慮されていることもあり、文系は英語、理系は数学（又は理科）だけでも学力検査を課したらどうか。」「意欲だけの入試になっている。基本的な能力が軽視されてはならない。」「受験指導の徹底しているわが国ではAO入試は適さないのではないか。」「選考基準が良く分からない。」「受験生の動揺を誘うので廃止してほしい。」という意見がある。その一方で「AO入試に向け、意欲のある生徒が漸増傾向にある。学ぶ意欲を引き出す入試制度である。」「多様な能力を評価されることによって、生徒たちの進路選択の幅が広がり、キャリア教育の上でも好影響を及ぼして

いる。」という評価もある。

山口大学としては、一部の高校からの否定的な意見を受けながらも、一方ではAO入試を積極的に受け入れる高校が増えてきていることを好ましい傾向と考えていた。ところが、それらの高校の多くは、我々が意図しない形での対策指導を行っていることが明らかになってきている。山口大学の当初の意図としては、高校における指導や受験準備を必要としない入試として開発し、個人の意思によって受験できることをアピールした。しかし、入試の実施回数が蓄積されるにつれてこれは意味を成さなくなってきている。この5年間に他大学でも多様な形態でAO入試が導入されてきたこと、また高校側にも受験生の側にも受験者による受験体験談、または数名しかない募集枠に対して1校から複数名出願した結果などから、それなりの受験情報が蓄積されていると考えられる<sup>1</sup>。

そこで、本稿では、まず、高校側に蓄積された受験情報から、受験生は高校教員からどのような指導を受けているのか、高校の関与について分析する。また、AO入試に対する合格者の意識を含めて山口大学AO入試の評価を一側面からであるが試みる。これらを考察するために、AO入試による入学者に対して実施した調査結果をもとに分析した。

## 2. 調査の概要

本調査で対象としたのは平成18年度AO入試による入学者81名である。18年度AO入試は、5回目の実施年である。これにより入学してきた学生(以降AO5期生とする)のフォローアップを目的とした会合(平成18年5月実施)の際に出席した77名に対し質問紙を配付し、その時間内に回収した。回収率は表1のとおりである。回収率の値は入学者数に対して示した。回答者の属性とともに、AO5期生の入学時の属性についても示してお

く。

AO5期生の学部別は表1、性別は表2のとおりである。AO入試による男女比は例年通りであった。また、出身高校での在籍学科は表3のとおりで、実際には農業科に2名いたが、1名工業科にマークしている。出身地別は表4のとおりで、平成18年度入学者全体の県内占有率は24.1%、AO入試による県内占有率も例年どおりである。AO入試は他の入試区分と比較すると県内占有率は低い。

表1 AO5期生入学者数

学部	募集定員	入学者数		回答票		回収率
		n	%	n	%	
人文	10	10	12.3	10	13.3	100.0
教育	10	10	12.3	8	10.7	80.0
経済	20	19	23.5	17	22.7	89.5
理	15	14	17.3	13	17.3	92.9
工	28	28	34.6	27	36.0	96.4
合計	83	81	100.0	75	100.0	92.6

表2 性別

	入学者数		回答者	
	n	%	n	%
男性	46	56.8	41	54.7
女性	35	43.2	34	45.3
合計	81	100.0	75	100.0

表3 出身高校での在籍学科

	入学者数		回答者	
	n	%	n	%
普通科	48	59.3	47	62.7
理数科	9	11.1	7	9.3
農業科	2	2.5	0	0.0
工業科	4	4.9	5	6.7
商業科	9	11.1	9	12.0
総合学科	6	7.4	5	6.7
その他	3	3.7	2	2.7
合計	81	100.0	75	100.0

表4 出身地別

	入学者数		回答者	
	n	%	n	%
県内	16	19.8	16	21.3
県外	65	80.2	59	78.7
合計	81	100.0	75	100.0

ここで平成18年度AO入試のプロセスを表5に示しておく。エントリーセミナーは2日間にわたり参加を義務付け、2日目にエントリーレポートを作成してもらった。第1次選抜は出願してきた書類とエントリーレポートを評価し選抜した。第2次選抜は2日にわたって行われ、1日目に面接、2日目に講義等理解力試験を実施し選抜した。講義等理解力試験は学部・学科ごとに工夫しており、講義を受けた上でディスカッションを行ったり、レポートを作成させたりしている。また、実験を行っているところもある。日程としてはエントリー受付期間初日から合格発表までちょうど3ヵ月を要した。

表5 18年度AO入試プロセス

Step1	AO入試出願予定者 エントリー受付	平成17年7月11日(月) ～7月15日(金)
Step2	エントリーセミナー 出席	平成17年8月8日(月) ～8月11日(木)
Step3	出願受付	平成17年8月16日(火) ～8月19日(金)
Step4	第1次選抜 (書類選考)	
Step5	第1次選抜結果発表	平成17年9月5日(月)
Step6	第2次選抜(面接試験, 講義等理解力試験)	平成17年9月12日(月) ～9月17日(土)
Step7	合格発表	平成17年10月11日(火)
Step8	入学手続	平成17年10月18日(火) ～10月20日(木)

### 3. AO入試受験準備から入学準備

#### (1) 山口大学AO入試の認知

山口大学AO入試について知った最初の情報源については図1の結果となった。「高校の先生」が著しく高く63.5%であった。次いで「ホームページ」が1割を超えている程度で、残りの選択肢は1割にも満たない。「山口大学の入試説明会」という項目もあったが0.0%であった。

山口大学AO入試を知った時期については表6のとおりとなった。「高2の3月以前」が29.3%で最も高い。山口大学AO入試の募集要項が配布された後の「高3の6月」「高3の7月」を合わせても25.3%で、「高2の3月以前」には及ばない。

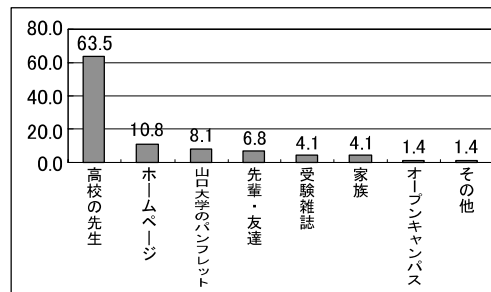


図1 最初に知った情報源

表6 知った時期

	N	%
高2の3月以前	22	29.3
高3の4月	17	22.7
高3の5月	17	22.7
高3の6月	12	16.0
高3の7月	7	9.3
合計	75	100.0

山口大学AO入試について知るきっかけとなった情報源と知った時期をクロス集計したものが表7である。カイ二乗検定は、5%水準で有為であった。どの時期においても情報

源は「高校の先生」が多いが、早い時期に知る場合は「先輩・友人」「家族」「ホームページ」「大学案内」も情報源となっている。知った時期がAO入試のエントリー直前の「高3の7月」では「高校の先生」のみになっている。

また、山口大学AO入試について知った時期と出身地をクロス集計した結果が表8である。山口大学のどの入試区分においても受験者・入学者の多い九州地方、中国地方では差がみられる。「山口県内」「中国地方」では「高2の3月以前」が最も多く「高3の7

月」はいなかった。これに対し「九州地方」では「高3の5月」が最も多く、「高3の7月」も17.2%いる。AO入試エントリー直前の「高3の7月」に高校の先生によって知らされた7名は「九州地方」と「四国地方」の学生である。

そこで、出身地とAO入試を最初に知った情報源をクロス集計したところ、この「九州地方」と「四国地方」は「高校の先生」が7割を超えており、他の地域と比較すると高い値であったが、有意差はなかった。

表7 知った時期と最初の情報源

		山口大学のAO入試を最初何で知ったか								合計	
		ホームページ	山口大学のパンフレット	オープンキャンパス	受験雑誌	高校の先生	先輩・友達	家族	その他		
一番最初に知ったのはいつ頃	高2の3月以前	N	1	3	0	0	8	5	3	1	21
		%	4.8	14.3	0.0	0.0	38.1	23.8	14.3	4.8	100.0
	高3の4月	N	4	1	1	2	9	0	0	0	17
		%	23.5	5.9	5.9	11.8	52.9	0.0	0.0	0.0	100.0
	高3の5月	N	1	0	0	1	15	0	0	0	17
		%	5.9	0.0	0.0	5.9	88.2	0.0	0.0	0.0	100.0
	高3の6月	N	2	2	0	0	8	0	0	0	12
		%	16.7	16.7	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	100.0
	高3の7月	N	0	0	0	0	7	0	0	0	7
		%	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	合計	N	8	6	1	3	47	5	3	1	74
		%	10.8	8.1	1.4	4.1	63.5	6.8	4.1	1.4	100.0

$X^2 = 44.775$   $df = 28$   $P = 0.023$

表8 出身地と最初に知った時期

		一番最初に知ったのはいつ頃					合計
		高2の3月以前	高3の4月	高3の5月	高3の6月	高3の7月	
山口県内	N	7	3	3	3		16
	%	43.8	18.8	18.8	18.8		100.0
山口県以外の中国地方	N	7	3	3	2		15
	%	46.7	20.0	20.0	13.3		100.0
九州地方	N	5	6	11	2	5	29
	%	17.2	20.7	37.9	6.9	17.2	100.0
四国地方	N	2	2		1	2	7
	%	28.6	28.6		14.3	28.6	100.0
近畿地方	N	1	1		2		4
	%	25.0	25.0		50.0		100.0
中部地方	N		2				2
	%		100.0				100.0
その他	N				2		2
	%				100.0		100.0
合計	N	22	17	17	12	7	75
	%	29.3	22.7	22.7	16.0	9.3	100.0

$X^2 = 39.951$   $df = 24$   $P = 0.022$

山口大学A〇入試について詳しく調べるために利用した情報源は図2のような結果となった。山口大学A〇入試について初めて知った情報源は「高校の先生」が最も多いが、詳しく知るための情報源は大学から情報発信している「ホームページ」「大学案内」であった。

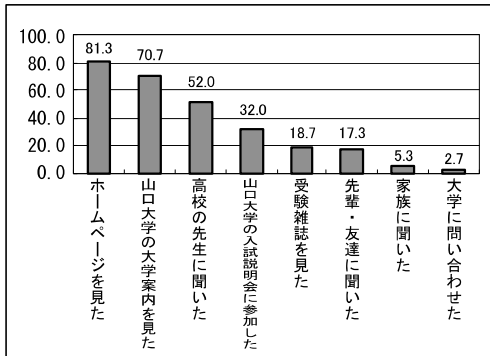


図2 どのようにして詳しく調べたか (複数回答)

(2) A〇入試出願決定と高校教員の反応

山口大学A〇入試に出願するにあたって相談した相手は表9のとおり「高校の先生」が最も多く、次いで「家族」であった。受験校を決定する上において「家族」よりも「高校の先生」のほうが影響を及ぼしていると考えられる。

表9 出願するにあたっての相談相手 (複数回答)

	N	%
高校の先生	51	68.0
家族	46	61.3
塾・予備校の先生	9	12.0
友人・先輩	8	10.7
誰にも相談しなかった	6	8.0

山口大学A〇入試を受験しようとした一番の理由は表10のとおりで、「学力試験以外で自分を評価してほしい」が最も多かつ

た。「強く勧められたから」には8名が回答し、強く勧めた人を記述式で求めたところ「高校の先生」5名、「友人」1名あった。「その他」の理由としては、「これ以外に山口大学に行く方法がなかったから」「自分なら合格すると思ったから」「受験の機会を増やすため」が記述されていた。「学力試験以外で自分を評価してほしい」とアピールできるものを持って受験を決めた学生もいる一方で、「強く勧められたから」や「その他」の記述にもあるように、学力試験を避けるために消極的にA〇入試受験を選んだ学生もみられる。

表10 山口大学のA〇入試を受験しようとした一番の理由

	N	%
学力試験以外で自分を評価してほしい	34	46.6
力試しのつもりだった	15	20.5
早く合格を決めたかった	12	16.4
強く人に勧められたから	8	11.0
その他	4	5.5
合計	73	100.0

山口大学A〇入試に出願するにあたって、高校の先生の反応はどうであったかの4段階評価と「A〇入試にチャレンジすることを知らなかった」の5つの選択肢で求めた。結果は表11のとおりである。「高校の先生」によるエントリー・受験の勧めが多いこともあり、「好意的」がきわめて多いが、出願し合格した学生の出身校の中にも「好意的でない」高校がある。前にも述べたが、A〇入試に対して否定的な立場をとる高校からの意見は頂戴している。面接時や入学後の会話の中で「高校の先生の理解はなかったが、受けたいと強く申し出た」という者もいるが、こうした否定的な高校からの出願はほとんどないのが現状である。

18年度山口大学A〇入試状況をみると、

エントリーした高校生519名に対し、エントリー者の高校数は240校であった。3人以上エントリーしている高校は55校あり、そのうち5校は10人以上エントリーしている。こうした現状を考えると、AO入試を受験機会の一つとして十分に活用している高校もあるが、広く理解されているとはいえない現状を抱えている。

表11 高校教員の反応

	N	%
大変好意的	53	72.6
ほぼ好意的	10	13.7
あまり好意的でない	4	5.5
好意的でない	2	2.7
AO入試にチャレンジすることを知らなかった	4	5.5
合計	73	100.0

(3) AO入試の出願準備と指導

山口大学AO入試の出願書類の作成、面接や講義等理解力試験を受けるにあたりどのような準備を行ったのか検討する。まず、出願書類を作成するにあたり誰に指導・アドバイスを受けたかは図3のような結果となった。やはり「高校の先生」が最も多く88.0% (66名)である。「指導・アドバイスは受けずに自分の考えで作成した」は6.7% (5名)しかない。また、面接の準備については図4のとおり出願書類の作成と同様「高校の先生と練習した」が82.7% (62名)できわめて高い。「一人で練習した」「面接練習はしなかった」はともに12.0% (9名)であった。

山口大学AO入試は自己推薦による入試であり、「指導・アドバイスは受けずに自分の考えで作成した」もので評価する入試として開発された。しかし、過去5年間の蓄積から、このように高校における受験対策が講じられている。

ところが、講義等理解力試験の準備は図5

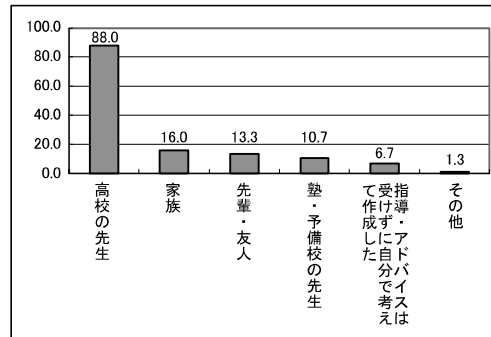


図3 出願書類作成の指導 (複数回答)

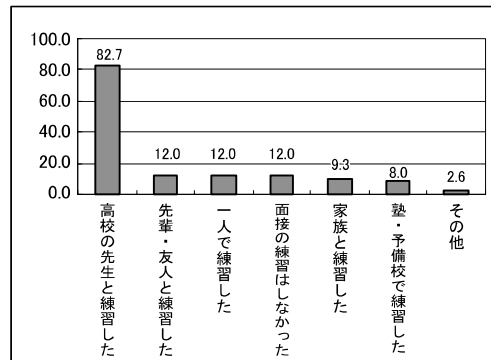


図4 面接練習 (複数回答)

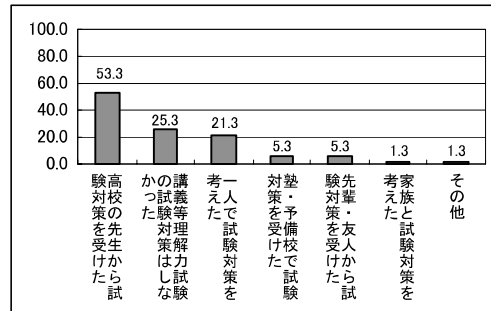


図5 講義等理解力試験対策 (複数回答)

のような結果となった。選択肢の中では「高校の先生から試験対策を受けた」が最も高い値で53.3% (40名)を示したが、出願書類作成や面接練習と比較すると、受験対策が講じにくいのか低い値になった。「高校の先生から試験対策を受けた」に次いで高い値を示したのは「講義等理解力試験の試験対策はしなかった」25.3% (19名), 「一人で試験対策を考えた」21.3% (16名)であった。

そこで、山口大学AO入試について初めて知った時期と高校教員の書類作成から面接・講義等理解力試験への教員関与がどのように関係しているかクロス集計を試みた。書類作成は表12、講義等理解力試験は表13の結果になった。

出願書類の作成は88.0%が指導を受けているが、早期の「高2の3月以前」「高3の5月」「高3の6月」にAO入試を知った者の中で指導を受けずに作成した者がいる。また、講義等理解力試験の対策は「高3の4月」「高3の5月」にAO入試を知った学生が対策を受けており、「高3の7月」にAO入試を知った者は対策を受けていない者が多かった。面接の練習においては、有意差はみられなかった。山口大学AO入試について知った時期に関係することなく多くの者が高校教員と面接練習を行っていた。

(4) 選抜に対する自己評価

第1次選抜の書類選考と第2次選抜の面接、講義等理解力試験に対する自己評価を求めた。まず、書類選考になぜ合格したと思うかについては表14のとおりで、「出願書類の志望動機、自己アピール、将来の夢・目標の記述がよかったから」28.0%が最も高く、次いで

表12 AO入試を初めて知った時期と出願書類作成の指導

		受けなかった	受けた	合計
高2の3月以前	N	2	20	22
	%	9.1	90.9	100.0
高3の4月	N		17	17
	%		100.0	100.0
高3の5月	N	2	15	17
	%	11.8	88.2	100.0
高3の6月	N	5	7	12
	%	41.7	58.3	100.0
高3の7月	N		7	7
	%		100.0	100.0
合計	N	9	66	75
	%	12.0	88.0	100.0

$X^2=13.451$   $df=4$   $P=0.009$

表13 初めて知った時期と講義等理解力試験の指導

		受けなかった	受けた	合計
高2の3月以前	N	12	10	22
	%	54.5	45.5	100.0
高3の4月	N	4	13	17
	%	23.5	76.5	100.0
高3の5月	N	5	12	17
	%	29.4	70.6	100.0
高3の6月	N	7	5	12
	%	58.3	41.7	100.0
高3の7月	N	6	1	7
	%	85.7	14.3	100.0
合計	N	34	41	75
	%	45.3	54.7	100.0

$X^2=11.178$   $df=4$   $P=0.025$

表14 書類選考になぜ合格したと思うか

	N	%
出願書類の志望動機、自己アピール、将来の夢・目標の記述がよかったから	21	28.0
自分ではわからない	19	25.3
エントリーレポートがよかったから	9	12.0
評定平均値（高校の評価）が高かったから	5	6.7
部活動の実績がよかったから	5	6.7
難しい免許・資格を取得していたから	5	6.7
高校の人物評価がよかったから	4	5.3
ボランティア活動を積極的にしていたから	3	4.0
（自主）研究が優れていたから	2	2.7
その他	2	2.7
合計	75	100.0

「自分ではわからない」25.3%（19名）となっている。

面接についての結果は表15のとおりであった。調査対象者が合格者であることが大きく影響していると思われるが、面接に対する自己評価は「自分自身について語る事ができた」という高い評価であった。

講義等理解力試験についての結果は表16のとおりで、「自分の力を十分に発揮することができた」という高い評価と「自分自身の力を十分に発揮することができなかった」とい

表15 面接試験の評価

	N	%
面接官と十分に会話ができ、自分自身について語る事ができた	40	53.3
面接官とある程度会話でき、ただどしどしが自分自身について語る事ができた	30	40.0
準備してきた内容は伝えられたが、想定外の質問には答えられなかった	2	2.7
その他	3	4.0
合計	75	100.0

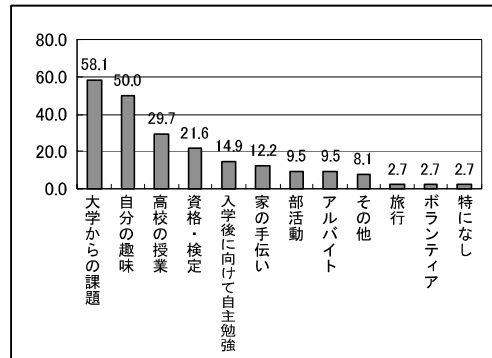


図6 合格後の生活で力を注いだこと

表16 講義等理解力試験の評価

	N	%
とても工夫された興味ある内容で自分の力を十分に発揮することができた	31	41.3
とても工夫された興味ある内容だったが、自分の力を十分に発揮することはできなかった	36	48
想像していたありき通りの内容だったが、自分の力を十分に発揮することができた	4	5.3
その他	4	5.3
合計	75	100

う低い評価はちょうどほぼ半数に分かれた。試験内容に対しては、「想像していたありき通りの内容だった」は4名と少数であった。

(5) 合格後からの入学準備

AO入試合格後の高校生活をどのように過ごしたかを把握するため、12の選択肢から3つ以内で回答してもらった。結果は図6のとおりである。山口大学では、入学前教育としてTOEICの通信課題を合格者全員に課している。また、学部からもそれぞれ課題が合格者に対して送られている。こうしたことから、「大学からの課題」が最も高い値となったが、次に「自分の趣味」に力を入れたという結果となった。趣味の内容を把握することはできなかったが、以下に「高校の授業」「資格取得」などの項目が続くことを考えると、「自分の趣味」に時間を費やした学生は合格後から入学までの間を自由に過ごしたことがうか

表17 TOEICの課題はどのように取り組んだか

	N	%
自分だけで取り組んだ	65	87.8
高校・塾・予備校の先生に質問しながら取り組んだ	6	8.1
ほとんど取り組まなかった	2	2.7
その他	1	1.4
合計	74	100

表18 学部・学科からの課題はどの程度取り組んか

	N	%
かなり取り組んだ	19	25.7
ある程度取り組んだ	36	48.6
あまり取り組まなかった	7	9.5
全く取り組まなかった	2	2.7
学部・学科からの課題はなかった	10	13.5
合計	74	100

がえる。

TOEICの課題についてどのように取り組んだかを質問したところ表17の結果となった。「自分だけで取り組んだ」87.8%で、この段階までくると高校の関与はほとんどなくなっている。TOEICに関しては、4月1日まで課題提出がなかったのは3名のみであった。

また、学部学科からの課題については一律ではないため、どの程度取り組んだかを質問したところ、課題が提出された学部の学生の多くが取り組んでいたが、2名はほとんど取



り組んでいないことがわかった(表18)。課題を出した以上、全員に取り組んでほしいものではあるが、まだ高校在籍中である入学予定者に対してどこまで指導が可能なのか、入学前教育の難しいところである。

そこで、高校教員からAO入試合格後にどのような指導が与えられたのか、8項目で質問したところ表19の結果となった。最も多いのは、「センター試験を目指して勉強するように指導された」29.7%で、次いで「他の生徒と同じように授業・課題に取り組むよう指導された」28.4%である。また、「先生からの指導やアドバイスはなかった」も20.3%いる。出願時や受験時には高校の関与が強い割には、合格後の指導は学校として一律の態勢に組み込む指導もしくは、指導なしといった消極的なものであることがわかる。こうした流れが、AO入試合格後の高校生活をどのように過ごしたかの質問で「大学からの課題」に次いで「自分の趣味」に時間を費やした学生が多かったことにつながっていると考えられる。

(6) 志望順位と受験行動

山口大学AO入試にエントリーする段階の山口大学の志望順位は「第一志望」78.4%(58名)、「第二志望以下」21.6%(16名)で

表19 AO入試合格後の高校教員からの指導

	N	%
センター試験を目指して勉強するように指導された	22	29.7
他の生徒と同じように授業・課題に取り組むよう指導された	21	28.4
個別に先生から課題はなかったがこれをしたほうが良いなどのアドバイスを受けた	17	23.0
先生からの指導やアドバイスはなかった	15	20.3
個別に先生から課題が与えられた	4	5.4
AO入試や推薦入学合格者が集められて特別授業があった	1	1.4
AO入試や推薦入試合格者が集められて特別な課題が与えられた	1	1.4

あった。山口大学では、AO入試のアドミッションポリシーの一番目に「山口大学で勉強したいと強く希望する人」を掲げて選抜しているが、実際は8割弱という結果である。高校教員による指導が強いことが影響していると思われる。また、表20の通りAO入試エントリー直前の「高3の7月」にAO入試について知った者は「第一志望」の割合が低かった。

表20 AOについて知った時期と志望順位

		第一志望	第二志望以下	合計
高2の3月以前	N	20	2	22
	%	90.9	9.1	100.0
高3の4月	N	13	4	17
	%	76.5	23.5	100.0
高3の5月	N	14	3	17
	%	82.4	17.6	100.0
高3の6月	N	9	3	12
	%	75.0	25.0	100.0
高3の7月	N	2	4	6
	%	33.3	66.7	100.0
合計	N	58	16	74
	%	78.4	21.6	100.0

$\chi^2 = 9.498$   $df = 4$   $P = 0.049$

他大学のAO入試、推薦入試の受験の有無は、「国立大学のAO入試を受験した」3名、「国立大学の推薦入学を受験した」1名、「私立大学のAO入試を受験した」1名という結果が得られた。山口大学AO入試は専願の入試である。出願資格には「合格した場合、入学を確約できる者とします。」と明記している。AO入試や推薦入学は他の国公立大学や私立大学の多くが同様の形式をとっている。AO入試導入大学の増加と山口大学AO入試における入学者のこうした結果を踏まえると、今後、出願後から合格発表前までの段階で試験欠席や辞退、または合格後の入学辞退等、専願の拘束力をめぐるトラブルが増えることが懸念される。

また、センター試験受験の有無は、「受験した」60.0%(45名)、「受験しなかった」

表21 高校学科別センター試験の受験有無

		受験有無		合計
		受験した	受験しなかった	
普通科	N	29	18	47
	%	61.7	38.3	100.0
理数科	N	5	2	7
	%	71.4	28.6	100.0
総合学科	N	4	1	5
	%	80.0	20.0	100.0
専門高校	N	7	9	16
	%	43.7	56.3	100
合計	N	45	30	75
	%	60.0	40.0	100

$X^2 = 12.401$   $df = 5$   $P = 0.030$

40.0% (30名)であった。山口大学ではAO合格者に対してセンター試験の受験を勧めるような指導はしていない。高校の学科別集計が表21である。専門高校出身のAO入学者はセンター試験を受験した割合が低かった。

(7) AO入試による入学者としての意識

山口大学AO入試をめぐることは山口大学内でも全教員が同一の意識を持って入試を実施し、入学者を受け入れているとはいえない状況にある。また、山口大学生の中にもAO入試を誤解している学生がいる。ましてや、高校側の理解もまちまちである。AO入試による入学者の卒業時調査からは「行動力のある特別な存在の学生、大学に有益な学生」といった特待生のような評価がある一方で、「学力に乏しい学生、個性だけを主張する変わった学生」、「楽をして入学した学生」といった評価がAO学生に伝わっていることが

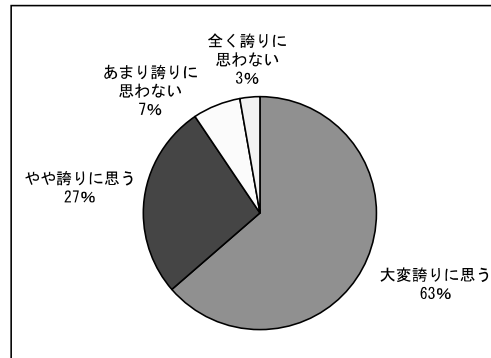


図7 AO入試で入学したことについて

明らかになった<sup>2</sup>。

こうした中で、AO5期生は山口大学AO入試で入学したことについてどのように受け止めているのか質問した。結果は図7のとおりであった。入学して1ヵ月半という時期の意識であるが、「誇りに思う」学生が9割であった。

そこで、エントリー時の志望順位とAO入試により入学したことへの意識をクロス集計したものが表22である。カイ二乗検定において有意差はみられなかった。第二志望以下で山口大学に入学しても、AO入試で入学したことに対して誇りに思えるという回答は、入学者がAO入試をどんなイメージで受け止めているのか、山口大学AO入試を評価する上においても考察する必要がある。

表22 志望順位とAO入試により入学したことへの意識

		大変誇りに思う	やや誇りに思う	あまり誇りに思わない	全く誇りに思わない	合計
第一志望	N	40	11	4	2	57
	%	70.2	19.3	7.0	3.5	100.0
第二志望以下	N	7	8	1		16
	%	43.8	50.0	6.3		100.0
合計	N	47	19	5	2	73
	%	64.4	26.0	6.8	2.7	100.0

#### 4. 考 察

本調査の目的は、まず受験生が出願から入学するまでの間の高校の関与について明らかにすることであった。結果は、AO5期生の多くが山口大学AO入試について知るきっかけを高校教員によって与えられ、大学が情報発信しているホームページや大学案内などで詳細を調べていた。また、出願・受験準備において、出願書類作成は高校教員の指導を受け、面接練習も高校教員と行っていた。講義等理解力試験対策は出願書類、面接ほど高校教員の指導はみられないが、それでも半数は指導が加えられていた。AO5期生の出願から受験段階においては、高校教員の関与が非常に強いことが明らかになった。

しかし、合格後から入学までの段階では高校教員の関与は消極的なものとなる。センター試験・個別試験を目指す受験指導の流れの中にAO入試合格者も一律に加えられている。または、センター試験を目指す指導以外では他の生徒と同じように授業・課題に取り組むよう一律の指導体制の中に組み込まれている。AO5期生が合格後から入学前の時期に力を注いだ取り組みとしては山口大学からの課題、自分の趣味が中心で、自主的な研究や活動はほとんどみられないことが明らかになった。

このことを踏まえたうえで、質問紙調査による一側面からではあるが山口大学のAO入試について評価を試みたい。山口大学のAO

入試のアドミッションポリシーは資料のとおりである。各学部、学科等のアドミッションポリシーは省略することとして、全学共通の3項目について考察する。

まず、①の「山口大学で勉強したいと強く希望する人」に対してであるが、エントリー時に第一志望者が78.4%であることは概ね山口大学で勉強したいと考えている学生が入学してきているといえるであろう。山口大学の平成18年度入学者全員に実施した『大学進学時の状況に関する調査』によると、一般選抜で山口大学に入学した1,654名のうちセンター試験直前で山口大学が第一志望であった学生は506名で30.6%である。質問した時期の違いはあるが、一般選抜の学生と比較するとAO入試による入学者は明らかに山口大学を強く希望した学生であるといえる。

また、平成18年度AO入試による不合格者の山口大学への再受験の動向を表23に、AO入試5ヵ年全体の再受験者の合格率を表24に示した。不合格者390名中130名(33.3%)が再受験をしており、3回の山口大学受験者22名、4回の山口大学受験者4名いる。このことから、AO入試の受験者は山口大学を強く希望している受験者層であることがわかる。山口大学の①の受入方針は受験者に理解され、また同時に、①を前提とした選抜が行われていると評価できるであろう。

ところで、5ヵ年のAO入試不合格者の再受験合格率であるが、2回受験となるAO入試と推薦入学Ⅰ、AO入試と推薦入学Ⅱ、A

#### 資料 山口大学AO入試アドミッションポリシー

山口大学がAO入試でもとめる学生像は

- ① 山口大学で勉強したいと強く希望する人
- ② 自己アピールできるものを持っている人
- ③ 自分の考えや意見を論理的に説明できる人

上記①、②、③に加えて、各学部、学科等のアドミッションポリシーは次のとおりです。

・・・・（省略）・・・・

表23 平成18年度AO入試不合格者の再受験動向

入試段階組合せ	再受験者	合格者
AO・推薦Ⅰ	66	32
AO・推薦Ⅱ	12	6
AO・前期	22	14
AO・推薦Ⅰ・前期	3	1
AO・推薦Ⅱ・前期	1	1
AO・後期	4	0
AO・推薦Ⅰ・後期	0	0
AO・推薦Ⅱ・後期	1	0
AO・前期・後期	17	0
AO・推薦Ⅰ・前期・後期	1	0
AO・推薦Ⅱ・前期・後期	3	1
合計	130	55

平成18年度AO入試不合格者数 390名

AO入試と前期試験の再受験合格率はそれぞれ順に48.4%、48.1%、51.1%である。AO入試に対して「意欲だけの入試になっている」といった批判もあるが、他の選抜方法にも対応できる能力を有し、山口大学に入学したい受験者が集まっていることがわかる。

次に②の「自己アピールできるものを持っている人」であるが、これについては、「山口大学のAO入試を受験しようと思った一番の理由」で、「学力試験以外で自分を評価して欲しかった」46.6%であった。学力以外での評価には、学問的興味・関心、意欲、将来の夢等を書類や面接、講義等理解力試験を通じてアピールしようとした学生といえよう。

また、書類選考になぜ合格したと思うかに対して「出願書類の志望動機、自己アピール、将来の夢・目標の記述がよかったから」28.0%で選択肢の中では最も高い値を示した。また、面接では「自分自身について語ることができた」は93.3%、講義等理解力試験で「自分の力を十分発揮することができた」46.6%であった。特に面接ではアピールの場として合格者に理解されているようで、自己評価からも面接の場で十分自己表現すること

表24 AO入試不合格者の再受験合格率

	再受験者	合格者	合格率
AO・推薦Ⅰ	219	106	48.4
AO・推薦Ⅱ	27	13	48.1
AO・前期	88	45	51.1
AO・推薦Ⅰ・前期	15	3	20.0
AO・推薦Ⅱ・前期	9	3	33.3
AO・後期	29	3	10.3
AO・推薦Ⅰ・後期	—	—	—
AO・推薦Ⅱ・後期	1	0	0.0
AO・前期・後期	58	3	5.2
AO・推薦Ⅰ・前期・後期	5	0	0.0
AO・推薦Ⅱ・前期・後期	8	1	12.5
全体	459	177	38.6

ができたからこそ合格したと考えている。

最後に③の「自分の考えや意見を論理的に説明できる人」については、調査結果は②と同様の結果から評価するしかないが、こちらは伝え方を問うている。何をどのような表現で自己アピールし、どのような評価が与えられたかは今回検討できないが、合格者には明らかに「自分の考えや意見を十分に表現することができた、つまり自己アピールが評価された」という認識があるのは確かである。

こうしたことが総合されてAO入試で合格したことを誇りに思う学生が9割に及ぶ結果につながったと考える。このことから、山口大学AO入試が求めていることは、受験生にほぼ理解されていると評価できるであろう。

しかし、受験生の理解の背景にはAO入試を知る段階から受験段階まで強い高校教員による関与がある。山口大学の場合、受験における協力者は「高校の先生」がほとんどであるが、協力者によって受験機会・選抜結果に影響が及ぶ可能性がある。現に、AO入試に対して否定的な考えをもつ高校からの受験者はいない。また、例えば書類選抜では、協力者である「高校の先生」によるアピールになっている可能性も否めない。また、高校が

らの意見として伝えられる内容や、調査結果からもわかるように、AO入試に「受験対策できる入試」を期待している高校と、一律に一般入試を目指した受験体制を取るためにAO入試そのものが受験機会にならない高校がある。こうした現実を踏まえた上で山口大学のAO入試を今後も継続・発展させていく検討が必要である。

本稿においては、AO入試による入学に対する調査結果に基づいて山口大学AO入試の評価を試みた。これは、AO入試合格者の意識に基づく一側面からの評価で、十分とはいえない。今後、高校教員や本学教員からも山口大学AO入試に対する意見や評価を求め、多面的に評価し検討を行う必要がある。

(アドミッションセンター 講師)

(アドミッションセンター 教授)

【注】

- 1 18年度AO入試にエントリーした高校生519名に対し、エントリー者の高校数は240校であった。3人以上エントリーしている高校55校、そのうち5校は10人以上エントリーしている。
- 2 平成18年3月に第1回AO入試による入学者が卒業するのを受けて卒業時追跡調査として学生

本人と、担当教員を対象としたアンケート調査を実施した。また、平成19年3月に卒業予定のAO入試で入学した学生に対しても既に平成18年12月に調査を終了した。学生調査では、アンケート調査とは別に面接調査を実施しており、この面接調査において学生がこのような評価をしていることが明らかになっている。

【参考文献】

- 大久保敦, 2002, 「平成14年度山口大学AO入試エントリー者調査結果」『アドミッションセンター研究報告書』, 山口大学, p.17~36
- 大久保敦, 2003, 「平成15年度山口大学AO入試エントリー者調査結果」『アドミッションセンター研究報告書』, 山口大学, p.8~47
- 富永倫彦, 2006, 「山口大学における大学進学時の情報利用に関する事例研究」『高等学校における進学情報の利活用とアドミッション・ポリシー』, 大学入試センター, p.71~97
- 岡田佳子, 2004, 「21世紀プログラム受験生の受験準備行動に関する調査分析—入試方法の評価の一環として—」『大学教育』第10号, 九州大学, p.137~153
- 山口大学アドミッションセンター, 2006, 『大学進学時の状況に関する調査報告書』